

# SPELT

March 2021. Vol.9, No.2

実用英語教育学会

# NEWSLETTER

目次

## 巻頭言

実用英語教育学会 会長 釣 晴彦

第10回 実用英語教育学会(SPELT)研究大会 報告  
(2021年2月13日 zoomによるオンライン開催)

ビジョン3-16：2021年東京オリンピックと日本の英語教育  
—これから地方でしたいこと・できること Part3—

## 1. 講演

場面・状況を意識した英語教育—ストーリー・絵本を中心に—

講師 萬谷 隆一（北海道教育大学札幌校）

報告 実用英語教育学会 竹内典彦・山崎秀樹

## 2. お知らせ

- ・ 2021年度の研究会について
- ・ 会員募集について
- ・ 編集後記

# 巻頭言

## 実用英語教育学会 第10回研究大会を終えて

実用英語教育学会会長 釣 晴彦  
札幌学院大学人文学部 教授

2020年は、コロナウイルスのパンデミックによって、社会全体、日常生活が一変してしまった年でした。今もまだどのようにして感染リスクを減らしていくか試行錯誤していますが、普通の日常生活のありがたみを思い知らされた年でした。

コロナ禍での2020年7月26日の研究会は、初めてのオンライン大会でした。古田智隆さんの「手・指でつくる発音」の3度目のワークショップを行いました。東京からzoomにての参加研究会でしたが、発音指導に関してはより深化した内容でした。実践をまとめたテキストが完成したので、今後如何に古田メソッドを教育現場で実践して普及させていけるかが鍵となりました。

今回の実用英語教育学会第10回研究大会のテーマは、「2021年東京オリンピックと日本の英語教育 - これから地方でしたいこと・できること Part 3 -」で、2021年2月13日に実施されました。夏のオリンピックが1年延長された今年、実施出来るかが今問われていますが、この研究会は、2年前に小学校と中学校をつなぐ英語教育のあり方について講演をして頂きました萬谷隆一先生に登場して頂きました。「場面・状況を意識した英語教育—ストーリー・絵本を中心に—」という題の講演で、前回と同様にzoomにてのオンライン研究会でした。オンラインでの授業活動をどのようにして実践出来るかも含めて、絵本を中心に萬谷先生が上手に参加者を導いてくださいました。教師がサポートしながら、内容の焦点を当て、想像力や感受性、集中力を画面に向けさせながらの活動は、今後の授業活動に大変参考になる手法でした。あっという間に時間が過ぎ去ってしまった印象を受けました。

2020年4月から新学習指導要領による小学校外国語活動が本格的に始まりました。コロナウイルス感染症対策で教育現場も混乱状況が続いていますが、ICTを駆使した遠隔授業など様々に工夫された授業も導入されています。ICTの活用がコロナ禍のせいで待ったなしで導入されて教育現場の先生達も大変苦勞が多いことと拝察いたします。大学では、対面式授業を除けば、オンライン授業では、オンデマンド型、ライブ型、ハイブリット型と分類されて授業が行われています。

実用英語教育学会は、小、中、高、大で教壇に立つ会員がこのようなコロナ禍の状況ですから、もっと相互につながり、オンライン授業に関する情報や手法を共有して、教育現場の具体的な課題を見つけ、そのための英語教育の実践と研究を行い、共に学んで歩んでいきたいと考えております。皆様のご指導、ご支援を一層賜りますようお願い申し上げます。

## 第10回研究大会 <講演>

場面・状況を意識した英語教育—ストーリー・絵本を中心に—

講師 萬谷隆一教授（北海道教育大学札幌校）

### 講演者プロフィール

講演者プロフィール

北海道苫小牧市生まれ。広島大学大学院修了。  
昭和 57 年 4 月 兵庫教育大学（学校教育学部）  
昭和 61 年 4 月 北海道教育大学（函館校）  
平成 12 年 8 月-13 年 4 月 ハワイ大学客員研究員  
平成 18 年 4 月 北海道教育大学教授（札幌校）  
現在に至る。



北海道英語教育学会会長、小学校英語教育学会会長、  
北海道 Super Global High School 事業運営委員長などを歴任。  
趣味：アコースティック・ギター演奏・作曲。

萬谷先生に実用英語教育学会でご講演頂くのは2回目です。前回は「小学校英語の今、そしてこれから」という演題でした。今回は、「場面・状況を意識した英語教育—ストーリー・絵本を中心に—」という演題でお話いただきました。オンラインという難しい環境の中でしたが、たいへん楽しく、また多くの気づきや学びの時間となり、参加者からたいへんご好評をいただきました。以下、ご講演の内容を紹介します。

#### 1. 場面・状況によって表現は変わる

教育実習生の授業で、下のダイアログを子供たちに練習させていたが、場面が設定されてなくて、子供たちは困っていた。

A: Help me, please.

B: Sure.

新学習指導要領目標の「思考力・判断力・表現力」のところでは、（下線部重要）

（2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

とされている。新学習指導要領のコミュニケーションでは、どんな場面・目的で、誰と、何を話してい

るかイメージしやすい練習をすることが重要である。チャンツ、口慣らし、リピートだけでは、コミュニケーションにつながりにくい。

### ◎場面・状況によって言い方が違ってくる

例1 ‘Do you like this shirt?’ ‘I like blue.’

場面 A: 服を買いに行って、店員に‘Do you like this shirt?’と赤いシャツをすすめられたとき、自分が青いシャツが好みの場面では‘I like blue’と声を落とした気が進まない言い方になるだろう。

場面 B: 反対に青いシャツを進められた場面では、‘I like blue!’と弾んだ声になるだろう。

例2 ‘What’s this?’ ‘It’s a watch.’

場面 A: 時計に見えない時計を自慢する場面では、‘It’s a watch.’と自慢げに答えるだろう。

場面 B: 先生が子供に腕時計の英語の言い方を教えてあげる場面では‘It’s a watch.’と丁寧に明瞭に答えるだろう。

場面 C: 先生が校則違反を叱って‘What’s this?’と聞いている場面では、子供は‘It’s a watch.’としょんぼり答えるだろう。

例3 ‘Do you have money?’ ‘Yes, I do./No, I don’t.’

場面 A: 相手から借金をお願いされて、‘Do you have money?’と聞かれる場面では、‘Sorry, I don’t.’と少し申し訳なさそうに答えるだろう。

場面 B: 朝、母親から持ち物確認で、‘Do you have money?’と聞かれる場面では、お金を忘れていたら、‘Oops, I forgot./No, I don’t.’とあわてて答えるだろう。

場面 C: 銀行強盗に‘Do you have money?’と聞かれる場面では、‘Don’t shoot!/Yes, I do!’と切迫して答えるだろう。

### ◎以下の会話はどんな場面で使われるのでしょうか？

(場面想像スキットを子供たちが作る)

‘What’s this?’ ‘It’s (                    ).’の場合

例1 学校の昼食時間でお弁当を食べている場面

児童 A: What’s this?

児童 B: It’s a fried chicken.

Do you want this?

児童 A: Yes, please.

例2 フルーツショップの場面

児童 A (客) : Hello.

児童 B (店の人) : May I help you?

児童 A (客) : What’s this?

児童 B (店の人) : It’s dragon fruit.

### ◎児童の振り返り

- What’s this?からいろんな場面が広がって行ってすごいと思った。
- 一つの言葉で、こんないろんな場面が作れて、見ていておもしろかった。

### ◎‘Can you do it?’ ‘Yes, I can. /No, I can’t.’の場合

児童 A (先生) : (簡単な分数かけ算を出題) Can you do it?

児童 B (児童) : (すらすら解けて) Yes, I can!

児童 A (先生) : (難しい分数かけ算を出題) Can you do it?

児童 B (児童) : (できなくて) No! I can’t!

ポイント：コミュニケーションとは、場面に身を置いて、表現を想起する。

### ◎「場面を想像する」中学校の取り組み

小学校で「音声」で習ってきた表現を使って、スキットを創作し、「書いて」、「発表する」。 音声を文字で確認する効果もある。

### ‘Can you ~?’ ‘Yes, I can.’の場合

生徒 A: How are you?

生徒 B: I’m hungry. I want pancake. Can you make pancake?

生徒 A: Yes, I can.

生徒 B: Let’s make pancake together!

ポイント：どんな場面・目的で、誰と、どんな気持ちで言うか、イメージしながら英語を使う経験を。

ポイント：絵本やドラマでも、正しく言っているだけでなく、どんな気持ちかを考えて、表現しているかどうかを大切に。

## 2. 場面・状況の重要性 (Top-down 処理)

### ◎ニューメキシコ大学の指導教員の言葉

降っている雨が地面に到達する前に蒸発している様子を見て、

‘Isn’t that fascinating? Rain evaporates before it touches the ground.’と仰った。この時の fascinating の使い方が印象的で、状況と相まって深くその意味を理解できた。

### ◎Top-down 処理の重要性：場面・状況が分かると理解は深まる

ある調査では、リスニングをする際に、事前に聞く内容についての予備知識を与えると、特にリスニング力下位群で、大きく成績が向上した。2回聞いたグループよりも効果があった。リスニング力上位群では、2回聞いたグループが最も成績が良く、予備知識を与えられたグループもほとんど同様に成績が良かった。

### ◎どうしたらコトバの記憶が残りやすいか

「コトバの記憶は、音声、形態だけでは弱く、意味処理すると記憶に残りやすい。」( Craik and Tulving, 1997)。

### ◎スキーマを活性化させると記憶に残りやすい

例 1 The waitress broke the bottle on the ship. (過失でびんを割った)

例 2 Princess Anne broke the bottle on the ship. (船の進水式の儀式の一部である Ship Christening として割った)

\*例 2 は「スキーマ」がないと状況を理解しにくいという面もある。

例 3 はスカイダイビングの英文で、これも一般にはなじみがないスポーツであり、「スキーマ」がない

と理解しにくい。

例4の日本語の文章には、「道具」「ゆるやかな曲線」「しっかりと張られた糸」というキーワードが出てくる。「場面」が Live music club なら、その「道具」とはギターなどの楽器を指す。「場面」が Wimbledon なら、「道具」はテニスラケットを指す。他にも弓などの解釈もあり得る。

\*例4はどんなスキーマが活性化されるかで解釈が違ってくる例である。

### \*ここまでのお話を受けての質疑応答

釣会長「「場面」が重要だという指摘に共感する。一方で子供たちが場面に合った感情表現をするのは難しいとも感じているが、その点はどうか？」

萬谷先生「小学校では学級の雰囲気によることもある。場面の設定が理解できるように、教師がモデルとなって演じて見せたり、写真を見せるなどの具体的な情報提供が重要である。」

神林先生「子供たちに、活動の目的に対する強いモチベーションが与えられると、十分な感情表現につながりやすいと感じている。そういう意味では活動の状況作りが重要である。具体例として、地域の情報をクイズにするという活動は、子供たちの感情表現がよく出ていた。」

釣会長「小学生にミュージカルの活動を指導したときに、だんだんと状況設定を子供たちが理解して、感情表出が上手にできるようになった。」

久野先生「場面と機能をどう結び付けていくことをイメージしているか？小学校ではゆるくシラバス化することは可能か？」

萬谷先生「場面と機能は密接に関係している。小学校では現在、場面やトピックのシラバスが中心である。中学校は文法中心のシラバスである。小学校では、「あの場面でこんなことを言ったな」というのを記憶の糸口にしている。場面や状況のシラバスのほうが思い出しやすいと考えている。」

### 3. 場面・状況のある言語指導：絵本をめぐって

次に絵本について、「場面の中で言葉を使っていく」という話をしたい。

イタリア文部科学省指導主事シルバナ・ランポーネ先生の絵本授業（CLIL＝内容言語統合型学習）を取り上げる。題材は‘The Three Little Pigs’である。ヨーロッパで CLIL は盛んであり、アジアでも最近行われるようになってきている。イメージ的な「英語を通じて教えていく」という流れになっているからだ。

ランポーネ先生の授業だが、まず「家」の話から始まる。日本やアフリカの家も取り上げて説明している。小学校中学年の授業である。子供たちには、「オオカミに負けない家を考えること」という課題が出され、‘My house is made of~.’という英文で、「家」の材料を考えさせる。‘My house is made of glass.’、‘My house is made of iron.’、‘My house is made of laser.’と「ガラス製の家」、「鉄製の家」、「レーザー製の家」を考えた子供たちもいた。

文法事項も随時、動詞の3単現の形を複数と比較する形で指導したりしていた。ビデオで10分程度の授業を観たが、ランポーネ先生は単語とセリフをカードにして希望する子供たちに割り当てていた。そのうえで、子供たちに動作をさせるなどして、理解を確認しながら、お話を英語で説明していた。理解を確認した後、子供たちにお話を演じさせた。その際に、必要があればランポーネ先生がどんどん介入して、「場面」や子供たちの「演技」をよりリアルなものに導いていた。子供たちも「場面」を演じることを楽しんでいた。

ランポーネ先生はヨーロッパ中で CLIL 授業を指導しているたいへん力のある人である。ビデオで観ていただいたように、子供たちに英語がしみこむような指導をされていた。こうした指導は中学校でも高校でも、教材を発達年齢に合わせていけば、可能と考える。主役のオオカミを演じた子供もだんだんと演技に熱がこもっていた。他の子供たちも「場面」にのめりこんでいた。

## ◎場面の中での言語使用

「場面を作りながら、そこで使われる表現を理解させる。」「言えるようにする。読むことも関連して扱う。」

## ◎Story TPR

ランポーネ先生の指導方法は、いわば‘Story TPR’である。教師が指示をして、子供たちがそれに従って身体を動かしたり演技をするという方法である。

## ◎浦島太郎を使った‘Story TPR’

次の4つの役を決めて(浦島太郎、カメ、悪ガキ、乙姫)、ナレーター(萬谷先生)がスクリプトを読み、それぞれが演技をした。このやり方で、実際の教室で「場面」で使用される表現を理解できるようになる。さらにランポーネ先生のように、語句やセリフのキューを出して、子供たちは「無言で笑う」などの演技をする。さらに進めば、子供たち自身が発話をすることもできる。「場面」が基本となり、子供たちの理解が進む。

## ◎絵本でのインタラクション研究

教師の読み聞かせストラテジーの類型化

「引き出す」「印象付ける」「はげます」

## ◎絵本 Where's Spot?(Eric Hill)

母犬が子犬のスポットを探すお話。

Is he inside the clock? No. (A snake!)

Is he under the bed? No. (A crocodile!)

Is he in the closet? No. (A monkey!)

(Spot is in the basket!)

## ◎優れた先生の(絵本を読み聞かせる)ストラテジー

1. ボケてみせる(Doubt) : 「とぼける」ふりをする事で、子供の発言意欲を刺激する。
2. さりげなく直す(Recast) : 子供たちが冠詞を欠落して答えたが、教師は冠詞をつけ、さらに完全な文にして再提示している。(教師が正しい言い方で聞かせ直して、子供たちが自力で修正するようにする。)
3. 英語を引き出す(Completion Prompt) : 教師が文の途中まで言って、後に続く語を子供から引き出す。(I am a・・・で止めて子供たちに Snake!と言わせる) Scaffolding の観点からすると、子供の力を最大限に引き出そうとする配慮である。

ポイント：絵本を複数回読むと、子供たちの日本語の発話量が減り英語が増える傾向がある。

## ◎3回目読みでのやりとり(絵本 Where's Spot?)

前置詞の違いを理解させる。「場面」をより深く理解させる。

(略)

教師： **On** the closet? Or **under** the closet?

子供： **In** the closet.

教師： That's right. The monkey is **in** the closet. (In を強調して) **In** the closet. OK?

## ◎絵本の読み聞かせ：教師の3つの談話手法

1. アウトプット誘因系：Wh 疑問文、Yes-No 疑問文、Completion Prompt
2. インプット系：Recast、Repeat Prompt、Answer Confirmation、Answer Provision
3. 発話意欲促進系：Acceptance、Doubt

## ◎質疑応答

次に、講演後の質疑応答の一部をご紹介します。

釣会長「ヨーロッパで盛んな CLIL の指導法や概念は、今回紹介された絵本の指導にも用いられていると思うが、日本でも今後盛んになっていくと考えているか？」

萬谷先生「中学校や高校の教科書で、環境問題など「内容」にも焦点をあてた教材を扱っているが、CLIL ではまさに「言語」と「内容」の両方を考える必要がある。どのように学習者に scaffolding をして、かみ砕いて内容だけでなく言語も関連させるかが重要だと思う。その点が、どの科目でもシンプルに英語に浸しつけるイマージョンとも異なる。よいテキストも指導案も少ない。日本の総合学習の科目と似ている面があるかもしれない。学習者にとって興味を持てる題材を、学習者や題材に応じて指導方法を考えるところがポイントになると思う。難しすぎる教材を選ぶとうまくいかない。」

神林先生「ゴールが明確な教材や教科はうまくいく可能性がある。」

釣会長「絵本はいまや、ストーリー性だけでなく環境問題など様々なジャンルがあるので CLIL と結びつくと思う。ただし、教師の力量に負うところも大きいように思う。うまくいかない場合もあるようだ。小学校では様々な教師が絵本を教材として取り入れている。国語教育とも関連させている。今日の Story TPR はとても参考になった。」

山崎先生「絵本については、自分の子供に対してや、町の図書館でボランティアで読み聞かせをしている。今日取り上げられた Spot のシリーズはとてもよい絵本だと思う。子供たちは高校生にはない反応してくれるので自分も「場面」にのりやすい。今日の話もたいへん参考になった。もっと子供たちの反応を生かしていきたい。」

小野先生「今日のお話はとても参考になった。「Recast が3割くらいの学習者には効果的だったという調査もある」という話があったが、子供の特性にもよるのかな、と考えながら聞いていた。質問だが、クラスサイズが大きい場合、一部の子供たちに演じさせるとして、見ている子供にも学習効果はあるものだろうか？」

萬谷先生「仲間の子供が演じるのは興味深く、集中して観察しているので一定の教育効果はある。」

三浦先生「よい絵本を紹介してもらえないか？」

萬谷先生「The Very Hungry Caterpillar は定番である。これを参考にして、子供たちが「自分たちならこんなものを食べたい」とお話を作った事例もある。他には Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? もある。それをもとに子供が自分の好きな黄色やピンクのドルフィンを紹介していた実践もある。工夫して発展させることができる絵本は多いように思う。」

三浦先生「絵本のテキストを隠して、絵を見てストーリーやセリフを考えさせることなら大学の授業でも可能かもしれない。」

太田先生「塾や小学校で絵本を教材として使っていた。学習の遅い子供もいるので同じお話を3回も、4回も繰り返すようにしていた。繰り返しても楽しい年頃なので学習の早い子供もいやがらなかった。絵本はよい教材だと思う。」

竹内先生「質問というよりもコメントですが、今日のお話の「音韻情報や形態情報よりも意味情報が記憶に残りやすい」というお話は、自分の経験上からもとてもよく理解できた。Where's Spot? のお話で前置詞にフォーカスしていたところがたいへん参考になった。」



## ◎アンケートでの感想

最後に参加者の声をご紹介します。(アンケートより抜粋)

「萬谷先生らしい、とてもほんわかした、しかし本質を突いたとてもよい講演会でした。」

「特に小学校の英語授業にかかわって、豊富な実践事例を交えて、理論とのつながりについてもお話をいただき、とても勉強になりました。」

「目的・場面・状況を明確にして言語活動を設定することの大切さを多くのデータや事例とともに理解できました。高校で生徒へ教えている立場であると、生徒の学力差の大きさや進路(大学等進学で求めるレベル)を考慮に入れて指導する場面が増えますのでどうしても評価をどうするか、という点から活動を考えていくことが多いです。イタリアの指導主事のモデルケースのような授業が本来は私も生徒もやりたいところなのですが・・・。評価の観点などを絵本を用いたリーディング活動でどう設定するか研究していきたいと思います。貴重なご講演、ありがとうございました。」

「体験的に児童に〇〇の効果がある、とっていたことを、理論的にわかりやすく教えて頂いて、ありがたかったです。楽しかったです。絵本を使って塾で教えていたのは10年以上前ですが、今日、学んだことを当時知っていたら、もっと良い絵本を活用した授業ができたと思うと、自分の勉強不足が悔やまれます。」

「読み聞かせや絵本の活用や、イタリアの事例を見せていただいて、もうすこし(授業を)リラックスしてやってもよいのかなと思いました。早期英語教育にあたる年齢の子どもたちはあれくらいのリラックス度合いと楽しさ、参加出来る楽しさ、TPRの活用など本来自然な英語習得に役立つと思いました。参加もさせていただき、大変ありがとうございました。教える校種は違いますが、良質な情報が多くありがたかったです。」

「高校生を指導していて、端的に感じるのは、絵本でも、状況・場面設定でも、アウトプット活動に際して、生徒が前向きに、活発に行動して、話し合い、発表するのに自己肯定感が不可欠であることです。」

「先生も仰っていましたが、小学校の優れた実践の陰にはクラス経営の関係があると思います。中高に進むにつれ、学力、やる気、自己肯定感に極めて大きな格差が生まれてくることと思います。この創造的な取り組みと並行して、それを実行していく生徒の自己受容感を高めていく取り組みも併せて不可欠であると感じます。」

「久しぶりに萬谷先生の長時間のご講演を聞いてよかったです。ありがとうございました。」

「本日は、ありがとうございました。具体的で、とても分かりやすい内容で参考になりました。あっという間の時間でした。大学で教えていますが、近隣の小学校が実践しています台湾とのスカイプ交流に関わっており、小学校での取り組みにも関心がありますので、本当に参考になりました。ありがとうございました。」

「絵本の効果的な使い方がわかりました。たくさんのヒントを頂きました。音声環境が良かったら中学校での授業の中での劇についてお知らせしたかったです。またの機会に残しておきます。本日は本当にありがとうございました。」

「絵本を授業に取り入れることの効果や、教師がどのように対話をしたらよいのかがわかり大変勉強になりました。ランポーネ先生のTPR劇が特に印象的で、上手く授業に取り入れてみたいと思いました。」

「様々な実践や手法等が大変勉強になりました」

「記憶の定着や指導要領の一節から、絵本を用いての授業展開、さわりは圧巻でした。年代を問わず、普遍的に応用でき、自身の授業でも取り上げたいと思います。」

「プロンプトの話が印象に残りました。高校生にはなかなか我慢できないところがありますが、努力してみたいです。」

(文責 竹内)

# お知らせ

## ◆研究会、研究大会の開催日（予定）について

第10回研究会は2021年6月20日(日)、第11回研究大会は2022年2月13日(日)に開催することを予定しております。詳細につきましては、後日あらためてお知らせいたします。ぜひご参加ください。

## ◆会員募集について

実用英語教育学会では、新会員を募集しております。年会費は4,000円です。会員の皆様は、研究会や大会の参加費が無料になるほか、口頭発表および論文発表の発表資格を得ることができます。SPELTの情報は下記のHPでご覧いただけます。

実用英語教育学会ホームページ <http://spelt.main.jp/>

## 編集後記

この1年はこれまでの授業形態が大きく変化し、遠隔授業の方法やオンライン会議など、教員自身も新たなことを日々学ばなければならない状況でした。必要に迫られての学びもありましたが、新たな知識を得ながら、できなかったことができるようになるという、学びの喜びも感じた1年でした。いよいよ新年度が始まろうとしています。学ぶ喜びを授業で伝えることができるよう、精進していきたいと思います。本学会では、これからも共に学んでいく会を企画していきます。皆様のご参加をお待ちしています。

(文責：杉浦)

### 実用英語教育学会

編集: *SPELT Newsletter* 編集委員 (杉浦理恵・石川希美)

発行: 2021年3月31日

事務局: 〒065-8567 札幌市東区北16条東9丁目1番1号

札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 石川希美 研究室内

TEL: 011-742-1651(直通) Fax: 011-742-1654(代)

Email: [spelt.info@gmail.com](mailto:spelt.info@gmail.com)